

実績報告書

届出者	住所	大阪市住之江区泉1-1-82	氏名	ハマダ株式会社 代表取締役社長 濱田 隆司
特定事業者の主たる業種		80娯楽業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		大阪市内でゴルフ練習場、遊戯施設、温浴施設、及び、不動産賃貸を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,961 t-CO ₂	3,185 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,493 t-CO ₂	3,583 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	4.1 %	6.5 %	12.2 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6.6 %	12.5 %	14.2 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>28年3月に、スパのボイラーを潜熱回収式に更新し、GHPを最新式に更新した。 更にゴルフ打球場の照明をLED化した。これらの効果が現れている。 28年10月に、マグ4階の照明、駐車場の照明のLED化を実施した。 ネットカフェを閉店したため床面積が減少し、原単位ベースの削減率に影響を与えた。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エネルギー管理責任者（社長）を中心に、支配人、業務責任者を含めた定例会議において、実績の把握や対策の決定を行っている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	スポーツビレッジスミノエ	コード (1218) 省エネ機器への切り替え	電球型蛍光灯やLEDへの交換を、取り換えのタイミングで進めていく。バッティングコートの水銀灯をLEDに更新 (26年12月)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	スポーツビレッジスミノエ	コード (1216) 省エネ機器への切り替え	設備更新のタイミングで高効率の空調機への変更を進める マグの空調機器を省エネ型に更新 (27年5月)。ゴルフの空調機器を省エネ型に更新 (29年1月)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	スポーツビレッジスミノエ	コード (1214) 発電能力増強、熱回収強化	コージェネを更新 44kwから62kwに能力アップ。熱回収率強化のため熱交関係を改良。(26年12月)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	スポーツビレッジスミノエ	コード (1218) 省エネ機器への切り替え	ゴルフ打球場の水銀灯54灯をLED12灯に更新 (28年3月) ボウリングの蛍光灯500本をLEDに交換 (27年12月)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	スポーツビレッジスミノエ	コード (1217) 省エネ機器への切替	スパのボイラー2基を潜熱回収型ボイラーに更新 (28年3月) スパの冷水チラーをインバーター方式のチラーに更新 (28年3月)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
6	レ	GHG排出	スポーツビレッジスミノエ	コード (1216) 省エネ機器への切り替え	スパのGHPを最新機種に更新。台数制御を導入し軽負荷時の効率を改善 (28年3月)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
7	レ	GHG排出	スポーツビレッジスミノエ	コード (1218) 省エネ機器への切替	マグ駐車場の水銀灯照明を、LEDに更新 (28年10月) マグ4階とナムコの蛍光灯をLEDに更新 (28年11月、29年1月)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	スポーツビレッジスミノエ	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブを啓蒙し実施する	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

		大阪府大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー19階	氏名	阪急リート投信株式会社 代表取締役社長 白木 義章
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		阪急リート投資法人保有の賃貸ビル（事務所・店舗）等不動産資産の管理運用等		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	26	年	4	月	1
					日
～			平成	29	年
					3
					月
					31
					日
(3年間)					

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,492 t-CO ₂	5,441 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	7,247 t-CO ₂	6,043 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	削減率（排出量ベース）	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	1.4 %	4.7 %	4.5 %
削減率（平準化補正ベース）		－ %	1.8 %	5 %	5 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	（延床面積）
（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>平成28年度の削減状況としては、照明LED化等の施策の寄与や運用面の夏期・冬期の節電対策の継続的な実施、気温の違い等により全体では第3年度で基準年度比4.5%の原単位削減となったものと思料。</p>
--



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

大半のビルの管理運営を委託している阪急阪神ビルマネジメント㈱や、他の管理会社においても随時エネルギー使用に対する監視及び削減対策を実施。
また阪急阪神ホールディングスグループの一員として、阪急阪神ホールディングス環境委員会の啓蒙活動を推進。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	上六Fビルディング	コード(1218) 照明設備の導入	共用通路照明器具LED化を実施した。	26年度 ～ 26年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	山田西阪急ビル	コード(1218) 照明設備の導入	電照看板内部照明器具LED化を実施した。	26年度 ～ 26年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	北野阪急ビル	コード(1217) エレベータの機器更新	エレベータリニューアル(4台)老朽化による巻上機・制御装置等の更新に伴う省エネ効果を考慮し対策に追加。	27年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	山田西阪急ビル	コード(1218) 照明設備の導入	共用部照明器具LED化を追加対策として実施。	27年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	北野阪急ビル	コード(1218) 照明設備の導入	共用部照明器具LED化を追加対策として実施。	27年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	山田西阪急ビル	コード(5115) エレベータの間引き	エレベータ間引き運転(平日)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	本社事務所	コード(5112) 不要時の消灯	昼休みの事務所照明消灯	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	本社事務所	コード(5113) パソコンの節電設定	パソコンの節電設定	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	本社事務所	コード(5111) ブラインドの活用	窓のブラインドの活用	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	全事業所	コード(5112) 照明の間引き	照明の一部消灯、管球の間引き	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

11	レ	GHG排出	全事業所	コード(5111) 空気調和設備 の適温設定	冷暖房温度の適切な設定	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	全事業所	コード(5114) 温水洗浄便座 の温度設定	可能な範囲で温水暖房便座のヒータ停止 あるいは適切な温度設定	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市福島区吉野 1-21-14	氏名	株式会社 阪神住建 代表取締役 岩崎 圭祐
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		分譲事業・賃貸事業・アミューズメント事業・マンション管理事業 再生可能エネルギー事業・社会福祉事業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	11,147 t-CO ₂	10,288 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	12,098 t-CO ₂	10,913 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	4.2 %	2.7 %	13.1 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4.7 %	14.8 %	27.2 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>主な事業所以外は一部照明器具をLED化しましたがエネルギー消費は増加しました。 原因は前年度はテナントビルが事業年度中の取得であったため前年との比較が正確に出来ないためと判断します。 主な事業所においては、機器の運転時間の管理、室温の管理を詳細に行いエネルギー消費を削減。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

前年に引き続き、事業所ビルにおいては省エネ担当職員を選任し省エネ計画の立案・推進を行う。テナントビルにおきましては、各テナントに弊社の省エネの取り組み姿勢を周知し協力を求める。スパワールドにおいてはデータ収集を行い無駄なエネルギー消費を排除する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	スパワールド 世界の大 温泉	コード (1125) 総合エネ ルギー事業の実 施及び検証	スパワールドにおける総合エネルギー事 業の実施及び効果検証 ⇒H28年度 空調用冷温水の温度調整を 適時実施。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	スパワールド 世界の大 温泉	コード (1124) 分散型電源導 入促進事業の 実施及び検証	分散型電源導入促進事業の実施及び効果 検証 ⇒H28年度 コージェネの運転時間を調 整し排熱利用効率を上げてボイラーの負 担を軽減。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	事務所ビル	コード (1218) 高効率照明へ の更新	蛍光灯から省エネ化の高い照明器具へ の変更を検討する ⇒H28年度 検討結果未実施	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	テナントビ ル	コード (1111) テナントに省 エネ取組要請	各テナントに弊社の省エネへの取り組み について理解を深めてもらい協力を要請 する ⇒H28年度 取組要請実施	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	テナントビ ル	コード (1218) テナント共有 部への高効率 照明の導入	テナントビル共用部の更新する照明器具 を省エネ化の高い照明器具を採用する ⇒H28年度 更新機器無し	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (2121) 低燃費車の導 入	社用車更新時には低燃費車を採用する ⇒H28年度 社用車の更新なし	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社	コード (2113) 公共交通機関 の利用促進	社員移動には可能な限り公共交通機関を 利用する ⇒H28年度 社用車台数削減	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策
